

がんばってます!
堺の企業!

自社開発のパーツが市場を独走

向陽技研株式会社

他社でつくれるものは
つくりません。

自社で開発したオリジナルパーツ「屈折金具」は、国際シェア60%以上。ますます世界に躍進する企業です。

自社でしかつくれないもの

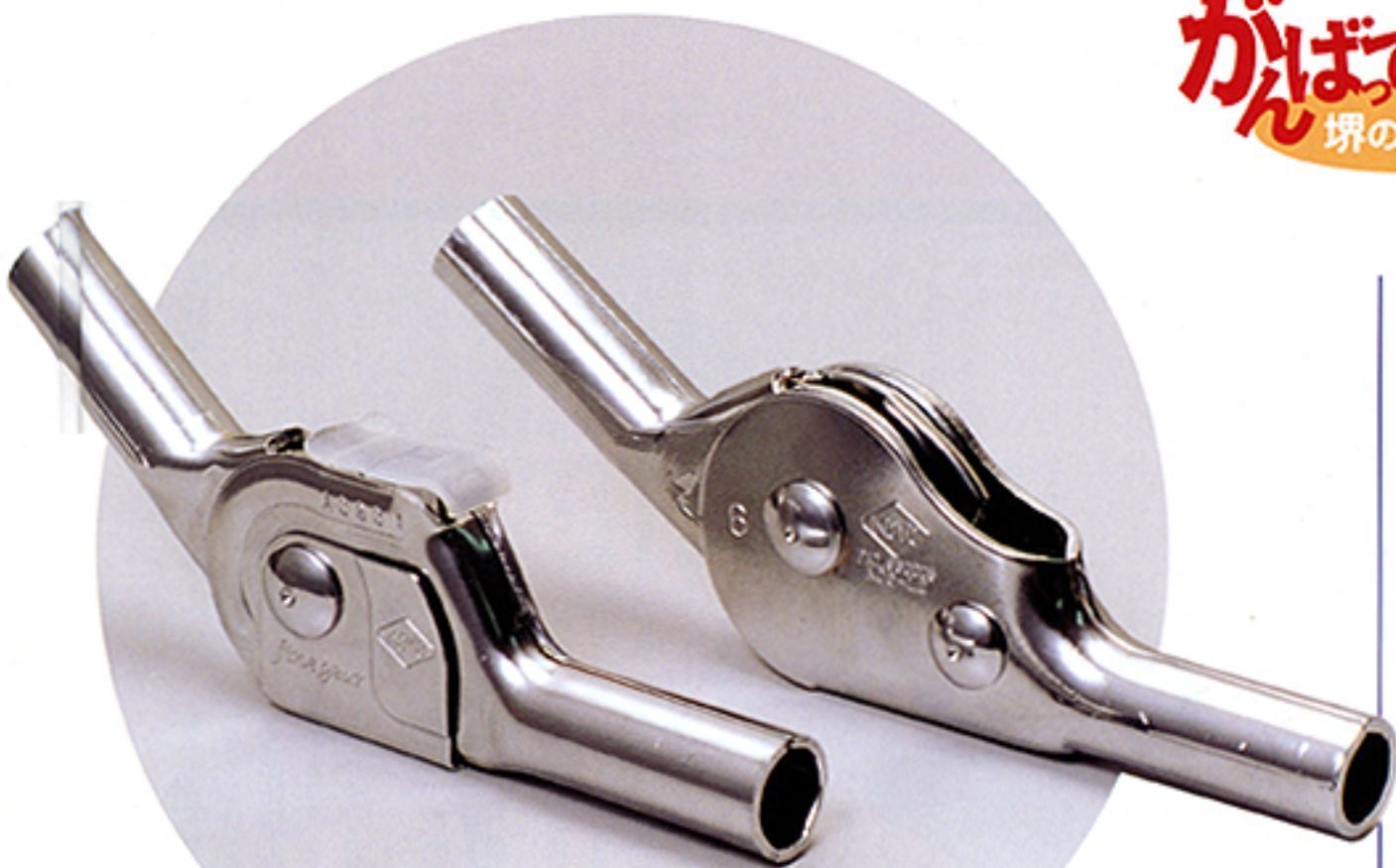
「屈折金具」という名称にはなじみがないが、カチカチと好きな角度に背もたれを調節できる座いすのパーツといえは、ピンとくる人も多しはず。

向陽技研株式会社は「リクライニング（屈折）」、「昇降」、「回転」する金具を開発、製造するインテリアパーツメーカーです。世界の主要国に輸出し、主力の「屈折金具」の国際シェアは、実に60%以上を占めています。世界中で支持される理由は、どれも微少のズレも許されない職人技を要するもので、すべてが開発から手がけたオリジナル製品だから。他社ではまねできない高い

企業理念は「Heart & Technology (ハートアンドテクノロジー)」。優れたパーツを生み出すためにはモノづくりに向けた人間性を高める努力が大切と語る山下雅伸社長。



昭和48年(1973年)、堺市西区草部に本社ビルを完成させるとともに社名を現在の向陽技研株式会社に変更。さらに雅伸さんが社長となった平成16年(2004年)に新社屋を増設。



向陽技研株式会社の礎を築いた6段階調節ギア(右)と、リクライニングに革命を起こした新開発の14段階調節ギア「ファインギア」(左)。

品質が向陽技研の信条なのです。

創業は明治35年(1902年)。当初は自転車部品の下請け加工などをしていましたが、現会長が社長のごときに下請けから脱皮したいと、自社製品の開発を始めました。そのきっかけになったのは、折られたみ式サマーヘッドの角度調節金具でした。当時、国産品のパーツは耐久性や剛性面で不良品が多く、会長は1年がかりでギアにカムをかみ合わせる屈折金具「ラチェットギア」を開発して特許を取得。この金具は座いすに多く使われるようになり、大きな需要を呼び起こしました。高性能ギアをつくる高い技術力が下請け工場から、国内屈指の屈折金具メーカーへと大躍進させたのです。

さらに昨年、向陽技研は世界最小で軽量、しかもより強度で、14段階調節を可能にしたリクライニングギアパーツ「ファインギア」を発表。この画期的なギアは日本のみならず、中国や台湾、アメリカ、ヨーロッパでも特許を取得し、インテリア業界に旋風を巻き起こしました。

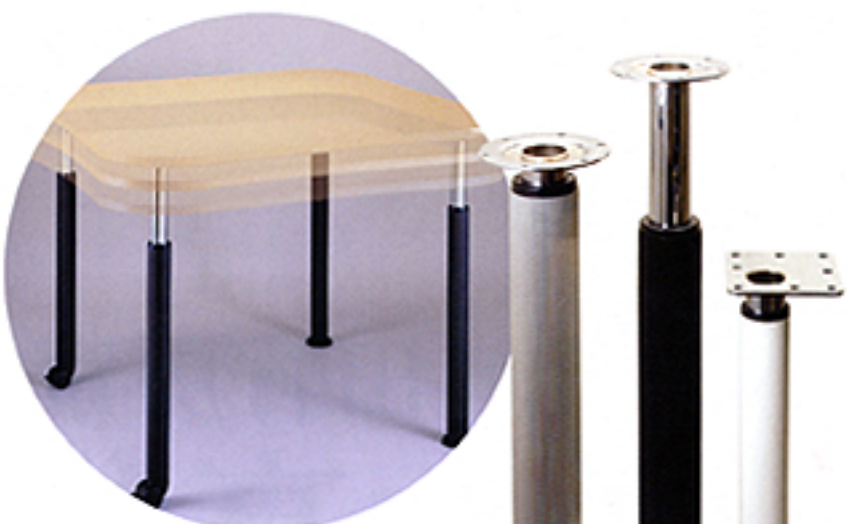
オリジナリティーを強化

向陽技研はリクライニングの屈折金具を開発後、その技術を応用して、食卓用いすなどを水平に回転させる「回転金具」、机などの脚として高さを自在に変えられる「昇降金具」を開発。その昇降金具「レグマン」は、ドイツの「2001年インターナショナル国際家具産



大量生産の中にもクラフトマンのこだわりを追求するプレスライン。

業・木材加工見本市」でハイテクオリティ賞を受賞。アジアでは初の受賞であり、インテリアパーツ先進国ドイツでの受賞は世界中の注目の的となりました。「レグマン」は、ヨーロッパを中心に世界の主要国に輸出され、大学やカフェのテーブルなどに使われています。日本では、子どもの成長に合わせた高さを変えられる学習机や、老人ホームなどで車いすの利用なども容易にできるような高さを調節できるテーブルに使われています。



オリジナルのメカロックというシステムで自在に高さ調節可能な「レグマン」。

の強みを磨き続ける企業姿勢が浮かび上がります。

「豊かな歴史遺産と伝統あるモノづくりのまち・堺

のDNAを受け継ぎ、その潜在能力を生かして、開発中のものをもっと世界に拡大していきたい」と、堺生まれの高性能・高品質パーツの舞台はこれからますます広がっていくのです。



高い耐久性、安全性、スムーズな回転を実現させた回転金具。